

能楽研究所彙報(昭和56年4月～57年3月)

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

234

(終了ページ / End Page)

239

(発行年 / Year)

1983-03-31

能楽研究所彙報

(昭和56年4月～57年3月)

〔紀要「能楽研究」の発行〕

昭和56年3月31日付で研究所紀要『能楽研究』の第六号を発行し、麻布校舎から富士見地区80年館への移転と時期が重なったため、4月に入ってから各方面に寄贈した。A5版二二二頁。古川所員の退職を記念する論文集で、内容は次の通りである。

世阿弥の平仮名書の用字法の特徴(下)

表 章

後藤 ゆう子 一

「親子物狂能」考

竹本 幹夫 二

謡曲改作史の一断面

西野 春雄 一三

猿楽「日吉座」考(上)

片桐 登一 三

『天正狂言本』雑考

田口 和夫 一八

狂言師としての森川杜園

古川 久三 三三

続いて第七号を57年3月31日付で発行した。A5版一九八頁。内容は次の通りである。

宝山寺本「風姿花伝」「至花道」の筆者は竹雲軒にて

竹雲軒は鳥養宗晰か

表 章 一

猿楽「日吉座」考(中)

片桐 登一 五

享保前後の新作曲―近世謡曲史考―

西野 春雄 一〇三

山良家蔵能楽関係文書目録(上)

竹本 幹夫 一七

研究展望(昭和55年)

表 章 一五

能界展望(昭和55年)

西野 春雄 一八

能楽研究所彙報

一九

〔能楽資料集成の発行〕

わんや書店と提携して昭和48年から継続刊行している「能楽資料集成」は、既刊の九冊に続いて左の二冊を刊行した。第十回配本分は七号の彙報に記載し残したものである。

『能之訓蒙図彙』(昭和55年8月30日発行) 第10回配本

表章所員の校訂。貞享四年伊勢屋刊『能之訓蒙図彙』四巻と、

宝暦十二年刊『^改能訓蒙図彙』下巻をオフセット影印で収め、解

説と索引を付した。B6判二九四頁。会員頒価三千円。

『重修猿楽伝記』(昭和56年12月25日発行) 第11回配本

片桐登所員の校訂。能楽諸家の山緒書の集成たる『重修猿楽伝

記』と、四座一流の役者付たる『文化七年猿楽分限帳』を翻印。

底本は田安徳川家本(現所在不明)の影写本たる東大史料編纂所所

蔵本。解説と索引を付す。B6判二九四頁。定価四千元。会員頒

価三千五百円。

なお、第10回配本が終わった段階でわんや書店は会員外への販売に踏切り、十冊分セット価格二万五千円、分売の場合は各冊三千円とすることになった。十一冊目以後は定価を付し、会員には割引価格で頒布する。

〔観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

11月中旬に開かれた選考委員会（委員は増島宏・横道万里雄・広末保・古賀照一・表章）で、第三回（56年度）受賞者として森茂好氏と大阪能楽観賞会が選ばれ、11月28日付で中村哲総長名義の通知を各方面に発送した。授賞理由と受賞者の主な経歴は左の如くである。

○〔受賞者〕：森茂好（もり・しげよし）氏

〔授賞理由〕：最近の氏の舞台は、56年11月12日の「近藤乾三の会」での「江口」をはじめ、一曲の情趣と格調を高め、ワキの本分的確に果たした好演が多く、その卓越した演技は、能に占めるワキの重要性を強く印象づけるものであった。

〔主な経歴〕：大正5年生れ。東京都出身。名人の誉れ高かった故宝生新の実子で、父に師事。14歳のとき「春日龍神」のワキヅレで初舞台を踏み、ワキ方の秘曲「張良」は昭和23年に披いた。30年・36年の両度芸術祭奨励賞を受賞。日本能楽会会員。義兄宝生弥一氏に次ぐワキ方の重鎮。天賦の美声と気品ある風姿に加えて、ワキの本分を十分に心得た的確な演技力を持ち、一曲の冒頭でその能一番の雰囲気を作り、次第にそれを高めてゆく表現力には、すでに定評がある。最近の顕著な舞台成果と

しては、前記の「江口」のほか、「楊貴妃」「景清」「松風」「弱法師」「鳥追」のワキなどが挙げられる。

○〔受賞者〕：大阪能楽観賞会（責任者、橘豊秋氏）

〔授賞理由〕：発足以来二十余年、すぐれた企画に基づく質の高い能楽の公演を定期的に主催し、また各種の講座や見学会を毎年開催するなど、能楽の普及に大きく貢献してきた。近年の企画はとくに意欲的で、関西の能界によき刺戟を与えている。

〔主な経歴〕：昭和35年2月に発足した会員制の能楽鑑賞団体で、能楽愛好家有志が企画・運営にあたっている。すでに二一七回を数える定例公演（現在は年5回）では、各地・諸流の名手を揃えた魅力的な番組を編成し、質の高い能楽を会員及び一般の観覧に供し続けてきた。最近5回分の能の曲目とシテ——辰巳孝「道成寺」、観世鏡之丞「屋島」、大坪十喜雄「杜若」、金剛巖「朝長」懺法、観世元正「松風」を見ても、同会の企画の優秀さが明瞭である。その他、能楽教養講座やバスを利用しての各種の見学会をしばしば催すなど、能楽の普及に大きく貢献している。現在は会員三百余名。理事長沼艸雨氏、事務局長橘豊秋氏。

授賞式は12月9日午後6時から市ヶ谷の私学会館で行われ、森氏御夫妻や橘氏御夫妻をはじめ、故寿夫氏の弟の鏡之丞・栄夫氏、前回受賞の野村万之丞・吉越立雄氏、野上素一・伊藤正義氏や大学関係者多数の出席のもとに、中村総長から賞状と賞金（25万円）が授与され、レセプションに移って歓談の後、午後8時半に散会した。

『世界の中の能』の出版

昭和54年12月6・7日の両日にわたって開催された法政大学主催の第四回国際シンポジウム「世界の中の能」の報告書が、同題の単行本(B6版二〇四頁、千二百円)として法政大学出版局から57年3月31日付で出版された。能楽研究所編で、両日の報告者の報告と、その報告や実演をめぐる討議の概要で構成している。出版後の反響も大きく、すでに品切になっている。

〔雑報〕

所長の交替

文学部長が兼務することを原則とする当研究所の所長は、文学部長交替に伴ない、56年11月18日付で矢内原伊作教授(哲学科)から加来彰俊教授(哲学科)に替った。矢内原前所長は喜多流の謡曲を嗜み、所長の業務にも意欲的であったが、任期半ばで健康を損ね、学部長(ならびに所長)を辞されたものである。

パート職員の採用

80年館移転後の書物の整理と、激増した閲覧者に対応するため申請していたパートタイム職員の採用が認められ、56年5月から法政大学大学院在学中の渡辺博之氏に手伝わってもらっている。

研究会活動

能楽懇談会(代表委員、小山弘志氏)の研究部会と能楽研究所が共催してきた研究会は、56年12月で『四座役者目録』の輪読を終え、57年1月から、研究発表を時どき加えながらも遠い謡曲また

は番外曲を読むことになった。研究所は引続き参加者の資料調査等に便宜をはかり、会場にも80年館会議室を使っている。

〔所員研究業績〕

表 章

【花伝】から【風姿花伝】への本文改訂 『語文』38輯	56・4
観世宗家蔵永正三年本『玄上』をめぐって 『観世』7月号	56・7
作品研究〈玄象〉 『観世』8月号	56・8
宝山寺本「風姿花伝」「至花道」の筆者は竹雲軒にて	
竹雲軒は鳥養宗晰か 『能楽研究』7号	57・3
西野春雄	
『能楽全書』綜合新訂版第六巻 解題・補注(東京創元社)	56・8
能現行曲一覽・ <small>明治以後</small> 新作能一覽(追捕)・現行謡物一覽	
能・狂言文獻一覽	
享保前後の新作曲―近世謡曲史考― 『能楽研究』7号	57・3
『世界の中の能』経過報告 『世界の中の能』(法大出版局)	57・3
片桐 登	
儒者僮叟と能メモ 『宝生』4月号	56・4
猿楽の音は怒る声なり 『宝生』6月号	56・6
「芸にはまり、商売を忘る」 『宝生』7月号	56・7
続・手猿楽「虎屋」資料 『宝生』9月号	56・9
いかなる罪ありて 『宝生』10月号	56・10
『重修猿楽伝記』(能楽資料集成11)校訂・解説 わんや書店	56・12
宝生座の歴史稿 <small>近世初期の宝生座を中心に</small> (十六〜十八) 『宝生』56・12	57・13

猿楽「日吉座」考(中)

田口和夫

『能楽研究』7号 56・3

法成寺・法勝寺猿楽のこと

『鏡仙』287号 56・4

〈水掛聲〉の形成

『鏡仙』289号 56・6

初期狂言の面影はどこまで探れるか

『国文学』26巻8号 56・6

『古本系江談抄注解』補訂三条

『馬淵和夫博士退官記念説話文学論集』 56・7

〈釣狐〉の形成と展開―覽流狂言史の一面

『芸能史研究』74号 56・7

〈近衛殿の申状〉の原拠

『能楽評論』46号 56・8

一休宗純の詩と能

『鏡仙』291号 56・10

作品研究〈自然居士〉

『観世』48巻11号 56・11

諷誦文のこと

『観世』48巻12号 56・12

統一休宗純の詩と能

『鏡仙』293号 56・12

〈小銀治〉の背景―名刀「小狐」のこと

『能楽評論』48号 56・12

眼睛考

『鏡仙』296号 57・3

竹本幹夫

「初深雪」の謡と『五音』

『鏡仙』288・290号 56・5・7

学界展望・中世(演劇)

『文学語学』第92号 56・11

竹田九郎小考

『鏡仙』292号 56・11

『庭訓往来註』所引の申楽伝説

『鏡仙』295号 57・2

常磐松文庫蔵『宗安小歌集』(異本)翻刻・解題

実践女子大学文芸資料研究所『年報』第一号

57・3

由良家蔵能楽関係文書目録(上)

『能楽研究』第七号 57・3

〔受贈図書〕

単行本(受入順*印は寄贈者)

観世寿夫著作集四 能役者の周辺 観世寿夫著 *平凡社 昭56

図説日本文化の歴史12 大正・昭和 代表編者 鹿野政直 *小学館 昭56

古文書 その面白さ・尊さ 反町茂雄著 *弘文荘 昭56

沖繩文化研究 8 *法政大学沖繩文化研究所 昭56

演劇年報 一九八一年版 *演劇博物館編 早大出版部 昭56

能・青春の日々 *小野長生著 私家版 昭56

清葉(創刊)30号合冊) *清葉会 昭56

八帖花伝書 在九州国文資料影印叢書刊行会 (*片桐登) 昭56

上鴨川住吉神社の神事舞・楽譜 同社神事舞調査団編 *兵庫県加東郡教育委員会発行 昭56

能謡100問100答 3集 *藤城繼夫著 わんや書店 昭56

この手拍 坂本欣司著 *能楽書林 昭56

能楽全書(六) 野上豊一郎編 西野春雄・松本雅解題・補注 *東京創元社 昭56

調査報告集二 *国立民族学博物館情報管理施設編・発行 昭56

京都大学観世会五十年誌 *京都大学観世会諧声会 昭56

和泉流狂言選 *島津忠夫・野崎典子編 和泉書院 昭55

図説日本仏教史 2 高取正男 他編 *法蔵館 昭55

古面の美 信仰と芸能 *京都国立博物館 昭55

能 吉越立雄写真集 *吉越立雄著 筑摩書房 昭47

青木健作の人と作品 *青木秋雄・青木恵美子著 私家版 昭56

- 狂言の装束(染織の美14) *増田正造構成・概説 京都書院 昭56
 能と古典文学 *松田存著 公論社 昭56
 能謡観照 香西精著(*香西昭夫) 檜書店 昭56
 能観賞入門 本田欽三企画 *淡交社 昭56
 華の能―梅若五〇〇年 *増田正造編 講談社 昭56
 佐渡鷺流狂言(資料一) 真野町教育委員会 昭55
 Eastan (Kabuki) And Western (Comedia Dell'Arte) 昭55 *ツビ・セルペル著 テルアビブ大学発行
- 雑誌その他
 青山語文 第11号(昭56) 青山学院大学日本文学会
 跡見学園国語科紀要 第28号(昭55) 跡見学園国語科研究会
 梅若 第24号~29号(56・4~57・3) 梅若会
 季刊永青文庫 第1号~3号(昭56) 永青文庫
 演劇学 第22号(昭56) 早稲田大学演劇学会
 謳楽 第31卷1号~32卷3号(56・4~57・3) 謳楽会
 岡大国文論稿 第9号(昭56) 岡山大学文学部国語国文学研究室
 学習院大学国語国文学会誌第24号(昭56) 学習院大学国語国文学会
 観昭 第12卷4号~13卷3号(56・4~57・3) 観昭会館
 観世 第48卷4号~49卷3号(56・4~57・3) 檜書店
 かんのう 第24号~25号(昭56・57) 大阪能楽鑑賞会
 喜多 昭和56年夏~冬(昭56・57) 十四世六平太記念財団
 きたぐに 第14号~19号(昭56) 北国川柳社
 橘香 第27卷4号~28卷3号(昭56・57) 梅若研能会
- 国語国文 第12号(昭57) 宮城教育大学国語国文学会
 国語国文学 第16号(昭56) 東京学芸大学国語国文学会
 国語国文研究 第65号~66号(昭56・57) 北海道大学国語国文学会
 国文学 第58号(昭56) 関西大学国語国文学会
 国文学研究 第74号(昭56) 早稲田大学国語国文学会
 国文学研究資料館報 第16・17号(昭56) 国文学研究資料館
 国文学論集 第19号(昭56) 山梨大学国語国文学会
 国文学論集 第15号(昭57) 上智大学国語国文学会
 国文目白 第21号(昭57) 日本女子大学文学部国語国文学会
 駒沢国文 第18号(昭56) 駒沢大学文学部国語国文学会
 金剛 第36卷2号~37卷1号(昭56・57) 金剛雜誌会
 金春月報 第2卷4号~3卷3号 金春月報編集部
 女子大國文 第89号~90号(昭56) 京都女子大学国語国文学会
 女子大國文(国文篇)32・33号(昭56・57) 大阪女子大学国語国文学会
 書陵部紀要 第32号(昭56) 宮内庁書陵部
 人文学報 第146号(昭56) 東京都立大学人文学部
 人文学論集 第15号(昭56) 仏教大学文学会
 聖心女子大学論叢 第56~57号(昭55・56) 聖心女子大学国語国文学会
 清葉 第31号~34号(昭56・57) 清葉会
 大学院紀要 第6号~8号(昭56・57) 法政大学大学院
 中央大学国文 第25号(昭57) 中央大学国語国文学会
 中世文学論叢 第4号(昭56) 東京学芸大学中世文学研究会
 鍬仙 第287号~296号(昭56・57) 鍬仙会
 伝統芸能 第309号~320号(56・4~57・3) 京都伝統芸能懇話会

- 塔 第21号(昭56) 国立音楽大学附属図書館
 東京金剛会能 昭和56年 東京金剛会
 同朋学園仏教文化研究所第3号(昭56) 同朋学園仏教文化研究所
 日本古典文学会報 第83号~90号(昭56・57) 日本古典文学会
 年報 第1号(昭57) 実践女子大学文芸資料研究所
 能 昭和56年4月~57年3月 観世能楽堂
 能 昭和56年4月~57年3月 京都観世会館
 能 昭和56年4月~57年3月 宝生能楽堂
 能 能楽協会報 第26号(昭56) 能楽協会
 能 研究と評論 第10号(昭56) 月曜会
 能楽タイムズ 第349号~360号(昭56・4~57・3) 能楽書林
 能楽の友 第172号~183号(昭56・4~57・3) 能楽の友社
 能楽評論 第44号~49号(昭56・57) 能楽評論
 能楽連盟報 第23号~25号(昭56・57) 新潟県能楽連盟
 比較文学研究 第39号(昭56) 東大比較文学会
 仏教大学研究紀要 第65号(昭56) 仏教大学学会
 文学史研究 第21号~22号(昭56) (大阪市立大学)文学史研究会
 文芸論叢 第17号~18号(昭56・57) 大谷大学文芸研究会
 文 林 第15号(昭56) 松陰女子学院大学国文学研究室
 宝 生 第30卷4号~31卷3号(56・4~57・3) わんや書店
 宝生流囑託会々報 第82号(昭56) 宝生流囑託会
 法政史学 第34号(昭57) 法政大学史学会
 みやび 第12号・第13号(昭56・57) コミュニティサービスKK
 山邊道第26号(昭57) 天理大学国語国文学会

〔編集後記〕

第八号もまた年度末ギリギリの発行となった。年度前半は能楽研究所創立三十周年記念の「世阿弥本による〈雲林院〉試演」の仕事に忙殺された上に、年度後半は内地留学で西野所員が業務を離れたのであるから、年度内発行自体が至難であった。

表所員の論文は以前からの宿題をやっと果たしたものの。能楽師に読んでもらうつもりで書いたので研究者には少しくどいかも知れない。併載した演能記録が利用度の高いものになったことで御容赦願いたい。竹本所員の由良家文書の目録(解題)は一応完結したが、由良家や同家文書全体の解説を次号に載せる予定である。

「丹後細川能番組」を本誌に翻刻できたのは大きな喜びである。宮津市教育委員会と中嶋利雄氏・松岡心平氏の御好意に厚く御礼申し上げる。この新資料出現の影響は大きく、片桐所員の「猿楽日吉座考(下)」が改稿を余儀なくされて本号に掲載できなかったのもその一例である。次号には必ず載せて責を果たすであろう。

『四座役者目録』研究会の報告として四氏の論考を掲載したのは新しい試みで、若手研究者の育成も能楽研究所の責務と考えてのことである。紀要に載せる以上は研究所が内容に責任を負わねばならないので、四篇ともあれこれ注文をつけて書き直してもらった。次号以降に収める分も同じ形を採ることになるであろう。

研究展望(昭和56年)は新たに兼任所員となった小田幸子が担当した。能界展望は紙面の都合から57年分と合せて次号に載せる。内容多彩で大幅に増頁した本号の編集は困難を極め、すこぶる難産だったが、充実した紀要になったと自負している。(表 章)